

## マレーシアの英語教育

広島大学大学院 築道 和 明

### I 概 観

#### 1. 地理的・言語的背景

マレーシアは、マレー半島、並びにボルネオ島北西部の2州 Sabah, Sarawak から成る人口約 1,224 万人 (1975), 面積約33万平方 kmの国である。全人口のうち、Bumiputra (原住民) と呼ばれるマレー系が54.7%を占め、次いで中国系が34.2%, インド系 9.0%となっている。これらの諸民族が各々の言語を用いて生活し、さらに英語が加わるという複雑な言語的背景をもつマレーシアの国家としての課題は、Bahasa Malaysia (以下 BM と略す) を国語として、また教授言語として確立し、且つ共有の文化遺産を有するという考えを植えつけることによって、民族的集団を結合し、マラヤ国民意識を作り出すことである (⑧: 1-4)。

#### 2. 教育的背景

マレーシアの教育を歴史的に概観すれば、英国による統治時代、第2次世界大戦後の混乱期、1960年代以降現在まで、という3つの時期に区分しうると思われる。英国による統治時代の特徴としては、マレー語、中国語、タミール語をそれぞれ教授言語とする vernacular schools と英語を教授言語とする English schools との 'four-streams' を挙げることができる。戦後になると国家の統一を促進する教育制度を確立することが緊急の課題となり、1957年には当時の文相アブドゥル・ラザクを長とする教育審議会が、初めて体系的な教育政策を策定し、報告書を作成した。その骨子は次の通りである。

- ① 学校には私立 (independent) と補助制 (assisted) の小学校、私立と指導補助制 (direct grant) の中等学校を認める。
- ② 小学校は標準学校 (マレー語学校) と標準型学校 (中国語・タミール語・英語学校) に分ける。
- ③ マレー語と英語を教授言語としないすべての小・中等学校において、両言語を必修科目とする。
- ④ すべての学校をマラヤ志向するために、共通のシラバスと時間表を導入する。

(⑧: 186-187)

1960年代に入ると無償教育の実施、中等教育の拡大、Sabah, Sarawak の教育条件の改善、という3つの課題が生じ、そのうちの中等教育の拡充に関しては、1965年から初等教育修了者は自動的に3年間の comprehensive school に進学可能となった。即ちあらゆる国民に対して、最低限9年間の学校教育が保障されることになったのである (⑥: 1-116)。

### II 教育内容・方法

#### 1. 英語の位置

BM が国語として、また公用語として規定され、1982年の段階で上級中等学校レベルにおいても、英語の授業以外は BM が教授言語として用いられることになったという事実は、英語教

育の観点からすれば、マイナス要因であると言える(⑥: 110 - 111)。一方、プラス要因としては、英国統治時代の影響を挙げることができる。つまり、現在の政府関係者のほとんどは、英語による教育を受けており、英語教育に対しては、次の資料に見られるように積極的な姿勢を示している。

English is the key to economic advance in all areas of life. It is taken for granted as the medium of communication in commercial offices and banks. (②: 1)

'English holds a dominating position in international councils and commerce, in the textbooks and literatures of the world. A command of it is one of our national assets.' (⑥: 109)

さらには、社会的な環境も、英語教育に対してプラスの要因として働いている。たとえば現在マレーシアには、3種類の英字新聞があり、そのうちの Strait Times 紙は1日に20万部以上も購読されており、テレビ、ラジオ番組についても大部分が英語で放送されているのである(⑦: 120)。

## 2. 教育課程

カリキュラムは、文部省の下部機関である Curriculum Development Centre が中心に開発、作成し、それは法的拘束力をもっている(②: 3, ⑩: 34 - 35)。初等、中等学校用のシラバスには、文法・文型項目が細かく配列してある(②: 3)。また、英語は初等学校の第1学年から必修科目として扱われており(⑥: 111, ⑨: 146)、初等学校では週300分、中等学校では次の表のような授業時数になっている。

Course of Study for Secondary Schools (Simplified form)

Levels	Minimum Times in Minutes Per Week						
	I	II	III	IV	V	VI	
English Language	240	240	240	Arts 160	Science 160	Arts 80	Science 80
Literature (Malay / English)	-	-	-	120	-	(only for Malay medium) - -	
English (as an elective subject)	-	-	-	-	-	320	-
General Paper (only for English Medium)	-	-	-	-	-	160	160
Total Minimum No. of Minutes Per Week	1780	1780	1780	1940	1780	1780	1780

(All other subjects are taught in B.M.)

(⑧: 23)

次に英語教育の目的に関しては、手許にある次のような資料から判断すれば、BMと英語の bilingualism をめざしているようである。

The long term education policy seems to be that every child will eventually be at least bilingual, in National Language and English. (⑥: 108)

Since language is the vehicle for learning and thinking, mastery of the basic skills in listening, speaking, reading, and writing should be systematically fostered according to the readiness of the individual child. (⑩: 50)

また、クラスサイズ、教授法に関しては、初等学校で通常40~45名、中等学校では35~40名であり、Direct Method が主流であると言われている。(広島大学留学生バラキナム・ムティ

ン氏の情報に基づく。)

### 3. 教科書・教材

教科書選定は、文部省の下部機関である Textbook Bureau が提示する推薦教科書リストに基づいて実施されている(②: 7)。手許にある NEW ENGLISH 1 for Malaysian secondary schools (下級中等学校1年生用)の1課の構成は右の図のようになっている。

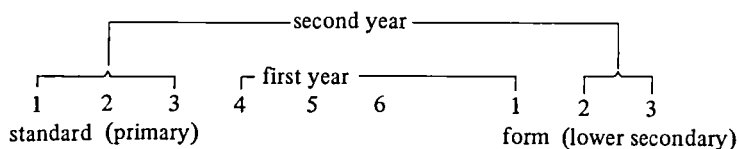
特徴的な点を列挙すれば、(1)量が多い(271ページ)、(2)読物は自国のことが中心、(3)文法・文型の練習問題が多い、(4)問題の指示等も全て英語である、(5) Punctuation, letter writing を重視している、など全体的には国語教育に近い内容であると言っても過言ではなからう。

次に、Audio-Visual Aids については、まず 'View and Teach' の film が教員養成、現職教育の場で活用されており、LL も、マラヤ大学、Language Institute などのいくつかの研究機関に設置してある(②: 8)。

New English	
1	Language drills Revision exercise Remedial exercise
2	Oral expression Speech training Social English Oral composition Language activities
3	Wider reading Punctuation Spelling Dictation
4	Written expression Sentence patterns Comprehension Guided composition

### 4. 教師・教師教育

教員養成は、文部省並びに大学の教育学部において行われている(⑦: 122)。文部省によるものとしては、Training College Courses が中心である。このコースは、1972年以降、初等教育と中等教育の教員養成を統合した2年間のコースとなった。つまり、下の図のように1年次には9年間の初等、下級中等教育の中間にあたる Standard 4 (初等学校の4年)から Form 1 (下級中等学校の1年)までを含むプログラムを履習し、2年次には、Standard 1~3, あるいは Form 2~3 のどちらかのコースを選択履習するのである(②: 5-6, ⑥: 139-140)。



次に、マラヤ大学教育学部のコースは、

- (1) Foundations of Education (5 units)
- (2) Methodology of Teaching (2 units)
- (3) Teaching Practice (3 units)

の3つのコースから成り、そのうち(2)に関しては、(a) Language Studies (1 unit), (b) Science Studies (1 unit), (c) Social Science Studies (1 unit) の中から2つを選択履習し、(3)については10週間の教育実習が課せられている(⑩: 96)。

教師教育の今後の課題は、約2万3千人の全教師のうち、教員養成の訓練を受けていない教師が約1万3千人もいるという現状から、すぐれた能力をもつ有資格の教師を多数養成することであろう(②: 5)。

## III 考 察

マレーシアにおける英語教育の最大の問題点は、教育課程全体を通して、教授言語を英語中心

から BM へ移行する過程で、生徒の平均的な英語力が低下する傾向にあるということであり、次の3領域において特にその傾向が顕著であると報告されている(⑧:9)。

i. Oral English

ii. Vocabulary and Grammar

iii. Confusion with the Malay language especially in sentence construction, spelling and terminologies

その原因としては、英語に接する時間の減少という要因の他に、有資格教師の不足、教授法、教材開発の遅れ、さらには、英語学習に対する動機の欠如という点も挙げることができよう。例えば、政府関係の就職に際しては英語よりも BM が重要視されつつあるという点が、英語学習に対する消極的な態度を助長していると言えよう。

このような諸問題が解決され、教育機器などの整備が進めば、BM と英語の Bilingualism も可能になると思われる。BM による民族の団結ということと、英語教育の充実という相反する課題をいかに克服し統一させていくか——これがマレーシアにおける英語教育の最大の問題点である。

おわりに、広島大学教育学部大学院において比較教育学を研究されているマレーシアからの留学生、バラキスナン・ムティン氏に、貴重な資料を提供していただいた。この場をかりて厚くお礼を申しあげる。

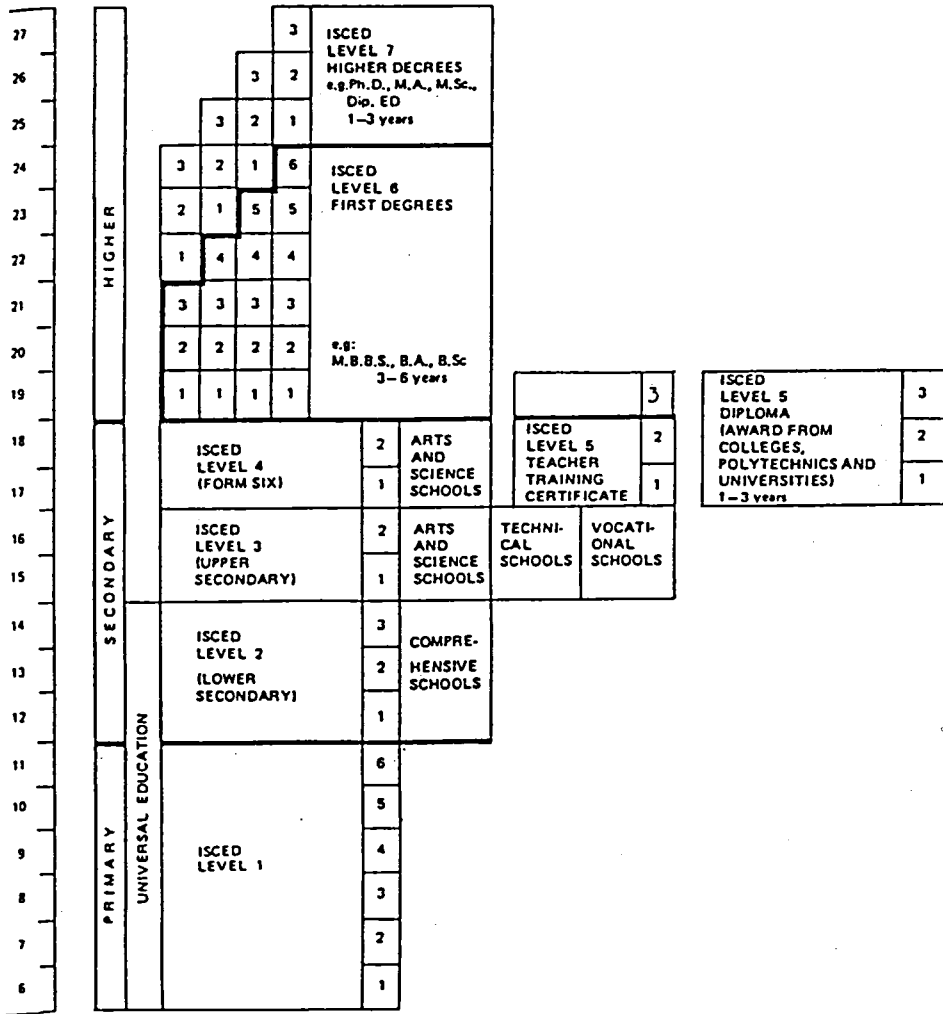
#### 〔引用・参考文献〕

- 1 Abbott, J. (1981) "Understanding One Another's Englishes," *WLE* 1, 1, 1-4.
- 2 English Teaching Information Center (1973) *English Language Teaching Profile: "Malaysia"*, mimeo.
- 3 Hayden, H. (1967) *Higher Education and Development in South-East Asia* Vol. II *Country Profiles*, UNESCO & the International Association of Universities.
- 4 Heng Hua, L. (1970) "In-Service Training of Teachers of ESL," *RELC J.* 1, 1, 139-144.
- 5 Ho-peng, L. (1976) "Error and Error Analysis in TESL: the Malaysian Experience," *RELC J.* 7, 2, 23-29.
- 6 Hoy Kee, F. W. & T. Hong (1975) *Education in Malaysia*, Heinemann Educational Books (Asia) Ltd.
- 7 Japanese National Commission for UNESCO (1971) *Regional Meeting of Experts on Teaching of English in Asia: Final Report*.
- 8 Mohamed, J. & R. Noordin (1981) *Development and Improvement of Skills for the Deaf*, mimeo.
- 9 Noss, R. (1967) *Higher Education and Development in South-East Asia* Vol. III *Language Polich and Higher Education*, UNESCO & the International Association of Universities.
- 10 Pritchard, N. A. & R. G. D. Chamberlain (1974) "Special Purpose English; Changing Approaches to English Language Teaching," *RELC J.* 5, 2, 48-57.
- 11 Wong, F. H. K. (ed.) (1976) *Readings in Malaysian Education*, Penerbit Universiti Malaya.
- 12 縫部恒雄, 永積 昭編 (1983) 『もっと知りたいマレーシア』弘文堂
- 13 長谷川正 (1976) 「マレーシアの英語教科書」『新英語教育』三友社。No 89, 70-77.

(注) 本稿は第13回中国地区英語教育学会における口頭発表に加筆、訂正を施したものである。

## STRUCTURE OF FORMAL EDUCATION

Expected ages  
at 1st. January



ISCED (International Standard Classification of Education)